

# サビエル生誕五百年



## 巡礼の道

372

藤屋 侃士  
(下松市幸ヶ丘)

### サビエルの祈り

「サビエル展を開催して①」

この「巡礼の道」は サビエル生誕五百年を  
タイトルにあるように 記念して彼が生まれた



祈るサビエルのお姿

北スペインのサビエル  
城などを巡礼して帰国  
した直後の二〇〇六年  
(H18)四月から書き  
始めたものだ。  
早いもので、もう七  
年、回数も三百七十回  
を超えた。小さいころ  
から「根気がない」「三  
日坊主」を自認してい  
る者として、よくこん  
なに長く書き続けてい  
ると不思議に思う。  
信仰に関係のない話  
や旅も含まれている  
が、長く書き続けてい  
るのはサビエルがもた

らした神への信仰によ  
るものだろう。  
ある時は心からそれ  
を信じ、ある時は信じ  
られないと迷う。  
去る十月二十日、山  
口市のサビエル記念聖  
堂前の広場で、山口・  
島根地区にある十八の  
教会の神父・信徒や修  
道会のシスター、教会  
関連の幼稚園の園児ら  
が集まって「信仰年・  
地区フェスティバル」  
が開かれた。  
信仰年というのは、  
前教皇ベネディクト十  
六世が宣言したもの  
で、未来に向かって社  
会に開かれた教会にな  
るようにと開催された  
第二バチカン公会議開  
幕五十周年を記念して  
設定されたものだ。昨  
年十月から約一年間を  
信仰年とし、一人でも  
多くの人に信仰の喜び  
を伝えようというもの  
である。

### 焼失前のサビエル記念聖堂で

ミサを捧げるイエズス会の神父



その地区大会の一角  
で「聖フランシスコ・  
サビエル写真展」が開  
かれた。これは細江教  
会の百瀬神父が上智大  
学で教鞭をとっていた  
時に開かれたサビエル

渡来四百五十年(一九  
九九年)を記念した写  
真展の写真を今回、上  
智大学から譲り受けて  
展示したものだ。  
パネル一枚ごとに解  
説のパンフレットも用

意され、見応えがある。  
そこで十月二十七日の  
下松カトリック教会の  
バザーの際、写真パネ  
ルを借りて展示した。  
その準備をしながら  
一枚ずつ用意された解  
説文を読み、改めてサ  
ビエルの生涯をゆつく  
りと振り返ることがで  
きた。その中で私の心  
に深く残ったのは、サ  
ビエルが十字架上のキ  
リストに対して行った  
祈りである。  
何度も読み返した  
が、読めば読むほど引  
きつけられた。ぜひ紹  
介したいと思ったので  
祈りの全文を掲載す  
る。

### 「十字架の キリストへの祈り」

主よ、私があなたを  
愛するのは、あなたが  
天国を約束されたから  
ではありません。  
あなたに背かないの

は地獄が恐ろしいから  
ではありません。  
主よ、私を引きつけ  
るのは、あなたご自身  
です。私の心を揺り動  
かすのは、十字架につ  
けられ、侮辱をお受け  
になったあなたのお姿  
です。あなたの傷つい  
たお体です。あなたの  
受けられた辱めと死で  
す。  
そうです。主よ、あ  
なたの愛が私を揺り動  
かすのです。  
ですから、たとえ天  
国がなくても、私はあ  
なたを愛します。望み  
が何もかなわなくても  
私の愛は変わることが  
ありません。  
フランシスコ・  
サビエル

すべてを捨て、命を  
かけてキリストの愛を  
東洋に伝えようとした  
彼の信仰が少し理解で  
きたような気がする。